

緊急連絡先

役所	平戸市役所	0950-22-4111
	生月支所	0950-22-9200
	田平支所	0950-22-9210
	大島支所	0950-55-2511
消防	消防本部・消防署	0950-22-3167
	中津良出張所	0950-27-1126
	生月出張所	0950-53-2580
	田平出張所	0950-57-0440
	大島出張所	0950-55-2040

警察	平戸警察署	0950-22-3110
	平戸市水道局	0950-22-3838
その他	九州電力(平戸営業所/平戸配電事業所)	0120-98-6939
	NTT(電話の故障に関するお問い合わせ)	局番なしの113 0120-44-4113

平戸・生月大橋の交通規制について

【規制基準】

規制発令要件 基準値を超えて、約30分以上継続した場合

規制解除要件 基準値を下回って、約30分継続した場合

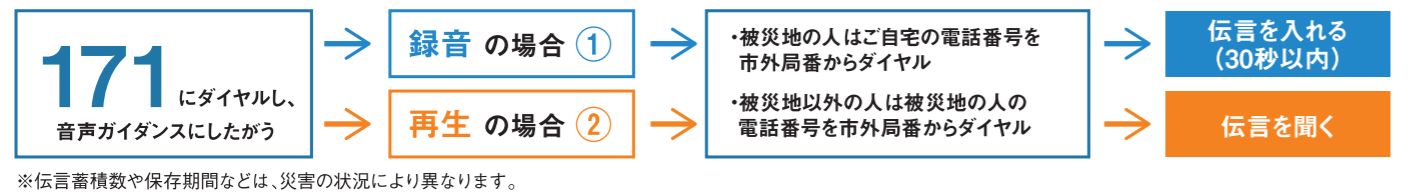
お問い合わせ 田平土木維持管理事務所 ☎0950-57-0562

風速計測値	規制内容
15m/秒以上	二輪車通行止め
20m/秒以上	人・二輪車通行止め
25m/秒以上	全面通行止め

災害用伝言サービス

災害時の声の伝言板NTT災害用伝言ダイヤル

「NTT 災害用伝言ダイヤル」の使い方 詳しくは、<http://www.ntt.co.jp/saitai/171.html>



体験利用可能日

- 毎月1日・15日
- 防災週間(8月30日から9月5日まで)
- 正月三が日(1月1日から1月3日まで)
- 防災とボランティア週間(1月15日から1月21日まで)

インターネットからの情報

● 平戸市ホームページ

<https://www.city.hirado.nagasaki.jp>

平戸市

検索



● 気象庁ホームページ

<https://www.jma.go.jp>

気象庁

検索



● 平戸市気象監視システム

<http://weath.bousai.city.hirado.nagasaki.jp>

平戸市気象観測システム

検索



● 気象庁気象警報・注意報

https://www.jma.go.jp/jp/warn/f_4220700.html

警報注意報 平戸市

検索



● 長崎県河川砂防情報システムNAKSS(ナックス)

<http://www.kasen-sabo.pref.nagasaki.jp/>

NAKSS

検索



● 雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)

<https://www.jma.go.jp/jp/highresorad/>

高解像度降水ナウキャスト

検索



保存版

令和3年(2021年)
3月作成

平戸市 総合ハザードマップ

生月町・田平町・大島村

自助 自分の命は自分で守る

共助 自分たちの地域は自分たちで守る



備え

土砂

水害

原子力

地震

津波

避難所

総合ハザードマップ

日ごろの備え 自助

家族で 防災会議



災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときに、あわてず行動できるよう家族で普段から話し合っておきましょう。

また、災害に備えて家の中と外をチェックし、危険な箇所は早めに改善するようにしましょう。

話し合いたい項目

- 家の付近の浸水状況や、土砂災害のおそれのある箇所の確認
- 災害が起こった時の身の守り方
- 家族間の連絡方法と、最終的に出会う場所
- 災害別の避難行動 (避難所とそこに行くまでの経路)

CHECK!

非常持出品・備蓄品リスト

CHECK!

非常持出品

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。事前に準備出来ているか、確認しましょう。

携帯ラジオ

- ラジオ
- 電池(多めに用意)

懐中電灯

- 懐中電灯 (できれば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

救急医療品

- 処方薬・常備薬
- 体温計
- ばんそうこう
- 包帯
- お薬手帳
- マスク
- 消毒液

非常食品等

- 非常用食品
- ミネラルウォーター
- 缶切り
- 缶詰
- 紙皿
- 水筒
- 栓抜き
- 紙コップ

貴重品

- 現金
- 健康保険証
- 印鑑
- 預金通帳
- 免許証
- 権利証書

その他

- 衣類(下着・上着など)、毛布
- 生理用品
- ウェットティッシュ
- 携帯電話の充電器
- 総合ハザードマップ(本書)
- ラップフィルム (止血や食器にかぶせて使う)
- 紙おむつ
- ライター
- タオル
- カップ
- ヘルメット

非常備蓄品

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるように確認しましょう。

飲料水

- 飲料水として ペットボトルや缶入りのミネラルウォーター (1人1日3リットルを目安に)
- 貯水した防災タンクなど

非常食品

- お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

調理器具

- なべ・やかんなど
- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他

- 生活用水 (風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- バケツ・各種アウトドア用品など

避難を判断するための情報(警戒レベルと防災気象情報)

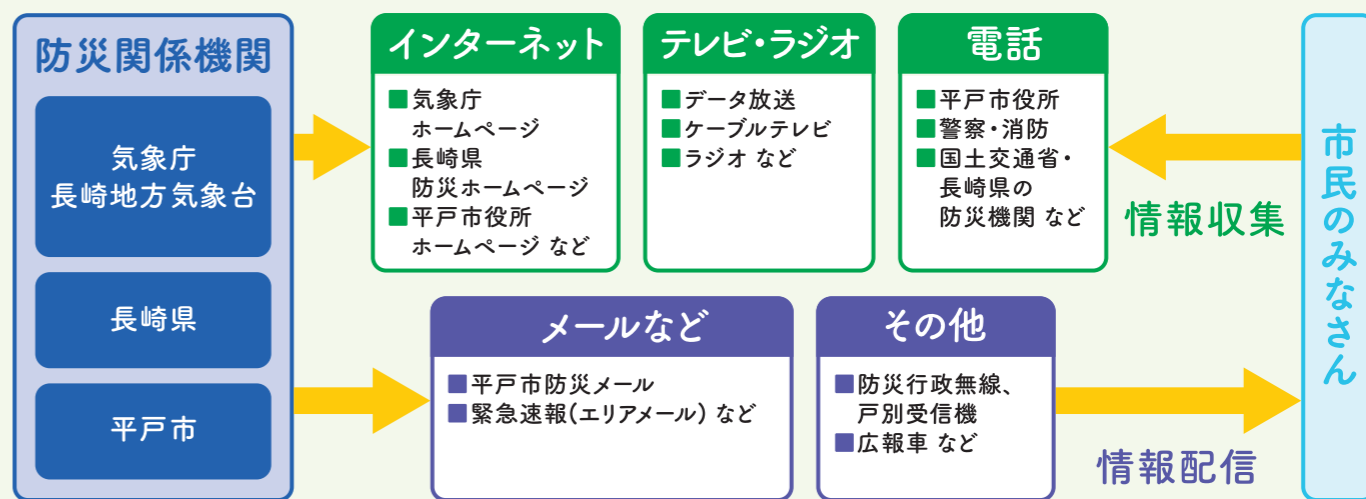
(令和3年出水期より運用開始予定)

防災気象情報	市が発令する避難情報	住民が取るべき行動	行動を促す情報
警戒レベル相当情報(例) 警戒レベル5相当情報 ●大雨特別警報 ●氾濫発生情報 など	警戒レベル 5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保! 緊急安全確保※1
<警戒レベル4までに必ず避難!>			
警戒レベル4相当情報 ●土砂災害警戒情報 ●氾濫危険情報 など	警戒レベル 4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 避難指示
警戒レベル3相当情報 ●大雨警報 ●氾濫警戒情報 など	警戒レベル 3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2 高齢者等避難
これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。国土交通省、気象庁、県が発表します。	警戒レベル 2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認 大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
	警戒レベル 1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める 早期注意情報(気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

防災情報の流れ



メール配信サービス

■ 平戸市が提供する防災情報などのメール配信システムです。(事前の登録が必要です)

【HPから登録】 <http://www.bousaimail.city.hirado.nagasaki.jp/mail/pub/>

QRコードからも登録できます



■ 緊急速報メール/エアメール

気象庁が配信する情報や、市が発信する避難情報を、特定地域内のスマートフォン・携帯電話端末に対して一斉配信します。観光や仕事、一時的に滞在している人も受信できます。
※登録不要、受信料無料ですが、位置情報などの受信設定が必要になります。各携帯電話会社のホームページをご確認ください。

ローリングストック法

非常持出品・備蓄品などで保管する非常食などを、定期的に消費し、その分をあらためて補充することで、「食べながら備蓄する」ということができます。



日ごろの備え 共助

地域の防災力

自主防災組織で地域を守る

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」の活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取り組みを活性化させましょう。



自主防災組織で地域を守る

自主防災組織とは、地域のみなさんが災害に対して協力し合う組織です。平戸市では、各行政区に自主防災組織が結成されています。

活動時の	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなで学ぼう! ●地域を点検しよう! ●訓練をしよう! 	<p>防災に関する知識を身につけましょう。想定される災害と対応について話し合しましょう。</p> <p>避難経路に危険な場所がないか点検しましょう。</p> <p>初期消火訓練 避難所の開設・運営訓練 避難者の誘導訓練</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●初期消火活動 ●避難誘導支援 ●救出・救護活動 ●情報の収集・伝達 ●避難所での支援 	<p>身の安全を確保し、消火器などを用いた初期消火の実施</p> <p>高齢者や障がいのある人などへの避難誘導の支援</p> <p>身の安全を確保し、被災者の救出や救護活動の支援</p> <p>災害に関する正しい情報を収集伝達</p> <p>水や食料などの配給支援や炊き出しなどの活動支援</p>	

災害時に特別な配慮を要する人への支援

高齢者や障がいのある人など、災害時において特に配慮を要する人は、地域のみなさんの支援が必要です。

<p>高齢者・病気の人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●背負う(または担架、リアカーなどを利用する)などして安全な場所まで避難しましょう。 ●複数の介助者で対応しましょう。 		<p>車いすを利用している人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どのように介助したらいいか、本人に確認しましょう。 ●階段では2人以上が必要です。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動しましょう。 	
<p>目の不自由な人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●声をかけ、情報を伝えましょう。 ●誘導する場合は、杖を持った人の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもらい、半歩前をゆっくり歩きましょう。 		<p>耳の不自由な人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにしましょう。 ●手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝えましょう。 	

平戸市における避難行動要支援者登録制度について

近年発生した災害においてたくさんの人々が被災者となり、その多くが避難するのに時間を要する高齢者や障がいのある人などの避難行動要支援者だといわれています。そこで、支援を必要とする避難行動要支援者に対し、日ごろの見守り活動などを行うことにより、災害時において可能な範囲で助け合おうというものです。

<p>登録の申し出</p> <p>災害時に支援を要する人は、事前に本人の情報などを登録し、要支援者の支援に必要な情報を地域の嘱託員や民生委員・児童委員などに提供しておくものです。</p> <p>登録希望の人は、情報提供に同意できる人になります。</p> <p>希望者は「平戸市避難行動要支援者登録申請書」に必要事項を記入の上、嘱託員または市に提出します。</p>	<p>避難行動要支援者の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ●要介護認定3～5の人 ●療育手帳Aを所持している人 ●身体障害者手帳の障害等級1級または2級の人(肢体不自由) ●身体障害者手帳の障害種別が聴覚障害、平衡機能障害の人 ●身体障害者手帳の障害種別が視覚障害の人 ●精神障害保健福祉手帳の障害等級が1級の人 ●その他、上記以外で市などが支援の必要を認めた人
--	--

自ら避難することが困難な人への支援イメージ



備え 土砂 水害 原子力 地震 津波 避難所 総合ハザードマップ

土砂災害

関連
WEBサイト

- 気象庁 土砂災害警戒情報
- 気象庁 大雨警報(土砂災害)の危険度分布
- 長崎県 土砂災害危険度情報

水害

関連
WEBサイト

- 気象庁 高解像度降水ナウキャスト
- 気象庁 大雨警報(浸水害)の危険度分布
- 気象庁 洪水警報の危険度分布

土砂災害の種類とその前兆現象

土砂災害が発生するおそれのある区域として、土砂災害警戒区域・特別警戒区域を県が指定しています。

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

がけ崩れなどの土砂災害が発生した場合に、住民などの生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域
危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

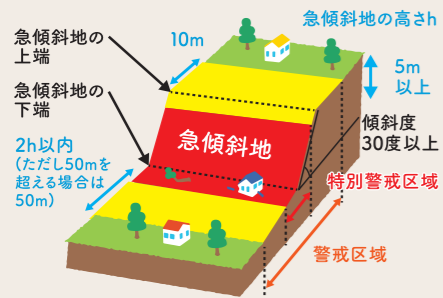
がけ崩れなどの土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民などの生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域
特定の開発行為の制限、建築物の構造規制などが行われます。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震などでゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。



●区域の指定基準



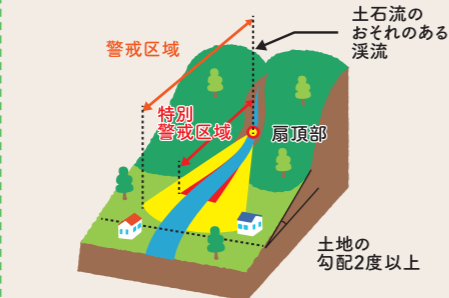
- 前兆現象**
- がけに割れ目が見える。
 - がけから水が噴出する。
 - がけから小石がバラバラ落ちてくる。

土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって、一気に下流へと押し流される現象です。



●区域の指定基準



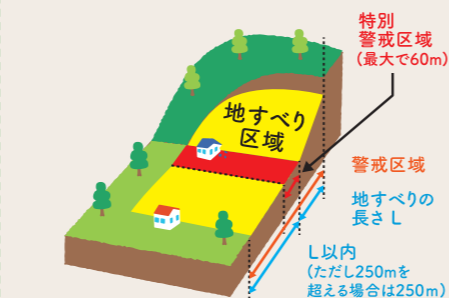
- 前兆現象**
- 山鳴りがする。
 - 川の流が濁り、流木が混ざりはじめる。
 - 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。

地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によって斜面下方に移動する現象です。



●区域の指定基準



- 前兆現象**
- 地面にひび割れができる。
 - 沢や井戸の水が濁る。
 - 斜面から水が噴き出す。

土砂災害時の注意点 いざ、避難

●危険を感じたらすぐに避難

土砂災害の前兆現象に気付いたり土砂災害警戒情報が発表されたりした場合など、身の回りの危険を感じたら、早めに近くの安全な場所へ避難してください。

●他の危険区域を通らない

避難する際は、土砂災害警戒区域など(イエローゾーン・レッドゾーン)をなるべく通らないようにしましょう。ハザードマップで区域を確認してください。

●やむをえず屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。



●雨がやんだ後も注意

これまで降った雨が土の中に残っています。雨がやんでも大雨警報が発表されている間は、土砂災害が発生するおそれがあるので警戒しましょう。

雨の降り方と強さ

1時間雨量	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上	110mm
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨	記録的短時間大雨情報
人の受けるイメージ	 ザーザーと降る	 どしゃ降り	 バケツをひっくり返したように降る	 滝のように降る	 息苦しくなるような圧迫感がある	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨(気象台が発表)

※今いる場所で雨が降ってなくても、周辺や山間部で大雨が降っていたり、雷鳴が聞こえたりした場合は、急な河川の増水や局地的な大雨が降るおそれがあるため、気象情報をよく確認してください。

台風の大きさと強さ

台風の大きさは、強風域(風速15m/s以上の強い風が吹いているか、地形の影響などが無い場合に吹く可能性のある範囲)の半径で表し、台風の強さは、最大風速で区分しています。

台風に関する情報の中では、台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で非常に強い台風」のように呼びます。

大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

台風コースと高潮の地域特性

台風は、地上付近では上から見て反時計回りに強い風が吹き込んでいます。(北半球にある日本の場合)

台風の進行方向に向かって右の半円では、台風の移動方向と風向きが同じであるため風が強くなります。そのため、湾口が台風の進路に面し、湾の軸が台風の進路と一致する場合には、高潮が生じやすくなります。



水害時の注意点 いざ、避難

●動きやすい服装で

ヘルメットで頭を保護し、運動靴をはきましょう。裸足・長靴は危険です。



●その他の注意点

- 橋はなるべく渡らないようにしましょう。
- 大雨時の田んぼの見回りはやめましょう。

●足元に注意

浸水すると足元が見えなくなり、側溝やマンホールに気付きにくくなるので、長い棒などを杖代わりにして歩きましょう。



●逃げ遅れた場合は

50cm以上浸水している場合や夜間の避難は非常に危険です。自宅の2階など高いところに避難して安全を確保してください。



原子力災害

平戸市では、原子力発電所の異常事象（事故）による原子力災害が発生した場合、市民のみなさんに混乱が生じないように、早急かつ正確な情報を収集し、平戸市内全域に対して、防災行政無線などで災害の情報をお知らせします。特に放射線の影響があると判断された場合は、囑託員への電話連絡や広報車による広報で、市民のみなさんに「取るべき行動」を指示しますので、災害対策本部からの情報を信じ、デマなどに惑わされないようにしましょう。

事故進展の区分			UPZ (原子力発電所から5~30km圏)
事態	状態	例	
警戒事態	緊急ではないが異常事象の発生またはそのおそれがある状態	佐賀県玄海町内で震度6弱以上の地震が発生した場合など	
施設敷地緊急事態	原子力発電所敷地外に放射性物質が放出される可能性が生じた状態	原子炉の冷却水が大量に漏えいした場合など	・屋内退避準備
全面緊急事態	原子力発電所敷地外に放射性物質が放出される可能性が高い状態	原子炉内の燃料棒が損傷した場合など	・屋内退避の実施 ・避難の準備

原子力災害時には

原子力災害の情報は、テレビ、ラジオ、防災行政無線、広報車などを通じてお知らせします。公共機関が報じる正しい情報や指示を聞き、慌てず行動することが大切です。

- 防災無線、音声告知放送、テレビ、ラジオなどからの正しい情報を待ちましょう。



- 近所の人と情報確認をしましょう。
- 落ち着いて行動しましょう。



屋内退避の指示がでたら

屋外にいる人は、自宅や近くの建物の中に入ってください。

コンクリート造の建物は、木造の建物に比べ放射線の遮へい効果がより大きくなります。

- 自宅や職場、近くの公共施設などに入りましょう。

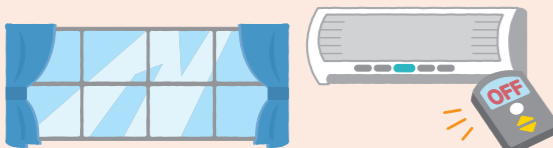


- 念のために飲料水を密閉容器に確保しておきましょう。

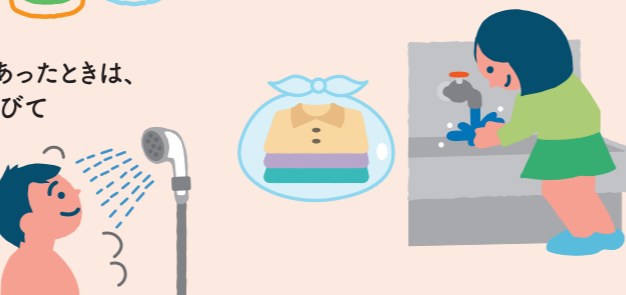


- 外から帰ってきた人は、顔や手をよく洗ってください。外で着ていた衣服を着替え、ビニール袋に保管しほかの衣類と区別してください。

- 外気ははいってくるのを防いでください。(ドアや窓を閉める、換気扇やエアコンを止める)



- 特に指示があったときは、シャワーを浴びて洗髪してください。



平戸市避難計画図



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図を複製したものです。(承認番号 平24九複、第152号)」

平戸市原子力災害避難行動計画 避難経路表

地区	避難経路	避難受入施設名
田助小学校区 中の原	県道田ノ浦平戸港線→市道田原崎線→市道御館線→避難所	平戸中学校
度島	本村港、飯盛港→第二、第三フェリー度島、漁船等→平戸港及び白浜港→徒歩→避難所	平戸文化センター
大島	大島港(的山外港、神浦港)→フェリー大島、漁船等→平戸港及び白浜港→徒歩→避難所	県立猶興館高等学校
田平	①国道204号→県道227号→西九州自動車道→避難所 又は ②国道204号→県道227号→県道139号→県道11号→避難所	佐世保市立相浦小学校 佐世保市立日野中学校 佐世保市立日野小学校 佐世保市立愛宕中学校 佐世保市立相浦西小学校 旧佐世保市立野崎中学校 佐世保市立相浦西小学校大崎分校 長崎県立大学 佐世保市立赤崎小学校 県立佐世保特別支援学校 佐世保市立船越小学校 佐世保市愛宕地区公民館 佐世保市立金比良小学校 佐世保市立光海中学校 佐世保市立相浦中学校 佐世保市立相浦地区公民館

自分の避難先	家族のルール
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 備え <ul style="list-style-type: none"> □ 万が一に備え、毎月、避難で持ち出すものを整理する。 □ 毎月1日、災害用伝言板WEB版のテストを練習する。 ■ 万が一のとき <ul style="list-style-type: none"> □ 避難の指示が出たら、xx公民館に集まる。 □ 遠いところに住む親戚に安否を連絡する。 □ 災害用伝言板WEB版に安否を登録する。
緊急時の連絡先(親戚等)	

地震／津波

避難のポイント(地震)

地震発生

まずは自分の身を守る

- 机の下に入る。 ●家具やガラス面から離れる。
- クッションや雑誌などで頭を保護する。

POINT

こんなときは…

■路上にいた!

窓ガラスや瓦などの落下物からカバンなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難する。

ブロック塀、自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱、垂れ下がった電線に注意する。



■人が大勢いる施設では

むやみに移動すると混乱をまねく恐れがあるため係員の指示に従い、落ち着いて行動。

■車を運転していた!

徐々にスピードを落とし、左側に止め、エンジンを切る。揺れがおさまるまで冷静に、カーラジオなどで情報収集。避難するときはキーは付けたまま、ドアロックもしない。貴重品を持ち出し、徒歩で避難する。



■山やがけ付近では

落石やがけ崩れに注意。

■エレベーターの中にいた!

すべての階のボタンを押し、停止した階で降りる。閉じ込められても無理に脱出しようとせず、非常ボタンで外部と連絡をとり救出を待つ。



発生から
1~2分

揺れがおさまったらまず火の始末

- 脱出口を確保する。 ●火元を確認する。
- 家族の安全を確保する。 ●靴をはく。



発生から
3分

隣近所の安全確認

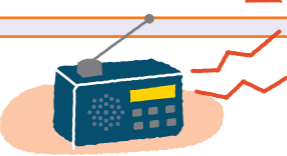
- 隣近所に声をかける。 ●近所に火が出ていたら初期消火
- 余震に注意 ●非常持出品を用意する。



発生から
5分

ラジオなどで正しい情報を入手

- 正しい情報をつかむ。 ●緊急連絡を優先
- 家屋倒壊などの危険があれば避難



発生から
10分~

協力して消火・救出・救護活動

- 助け合いの心が大切 ●水・食料は蓄えているもので。 ●壊れた家には入らない。
- 災害情報・被害情報の収集を行い、デマ情報にまどわされない。



避難のポイント(津波)

小さな揺れでも油断禁物!

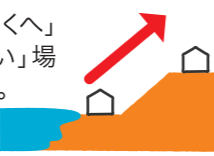
小さな揺れの地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れの場合、津波が押し寄せることがあります。



高い場所へ避難する

海岸から「より遠くへ」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。

海拔表示板を
目安により高い
ところを目指し
てください。



海岸や川には近づかない!

海岸はもちろん、津波は市街地よりも川を早くさかのぼりますので、できるだけ川に近づかず避難しましょう。



率先避難者になりましょう

率先避難とは「緊急時に周囲に避難を呼びかけつつ、自ら率先して避難すること」を言います。率先避難者になることで、それを見ている周囲の人に避難行動を取らせるきっかけになります。



避難について

避難の考え方(水平避難/垂直避難)

避難しようとするのは「あなた自身」です。過去の災害で大丈夫だったからといって安心できません。避難することで助かるのは、「あなたの命」であることを強く認識してください。

ハザードマップを確認しましょう!

危険区域の中や 周辺にお住まいの人

ハザードマップで、危険区域(浸水想定区域や土砂災害警戒区域など)にお住まいの人は、周辺の避難所や避難経路を確認しておきましょう。

危険区域の外に お住まいの人

危険区域の外にお住まいの人は、自宅での安全確保のための備えをしておきましょう。また、もしもの場合を想定して、周辺の避難所や避難経路を確認しておきましょう。

避難行動には大きく2つの考え方があります

立退き避難(水平避難)

- 予想される浸水が2階の床面(3m)以上の場合
- 土砂災害による家屋倒壊などのおそれがある場合

安全な場所まで 立退き避難



夜間に大雨が
予想される場合 明るい時間帯での予防的避難

屋内安全確保(垂直避難)

- 予想される浸水が
2階の床面(3m)未満の場合
自宅内の高い場所へ避難



- 屋外への避難が
かえって危険な場合

がけや山から離れた部屋へ避難



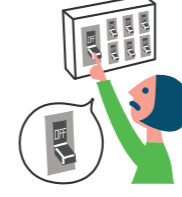
避難場所の種類

- 指定避難所 は、被災した人が一定期間の避難生活を送るための施設です。
- 指定緊急避難場所 は、災害発生時に緊急に逃げるための施設です。
- 臨時避難所 は、指定避難所には該当しませんが、災害発生時の状況に応じて臨時的に開設する施設です。
- 福祉避難所 は、高齢者や障がいのある人などが避難所での生活に支障がある場合に避難するための施設です。

避難のポイント

避難する前に

電気のブレーカーを落とし、ガスなどの火元を閉め、親類や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



一人暮らしのお年寄り などには気配りを

近所の一人暮らしのお年寄りや病気の人がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。



車での避難は控えて

車での避難は緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。



浸水した道路を通る場合

水路には十分注意して、できるだけ高いところにある道路を選びましょう。



速やかに避難しましょう

避難に関する情報が発表されたら、速やかに避難しましょう。避難の際には消防団員などの指示に従いましょう。

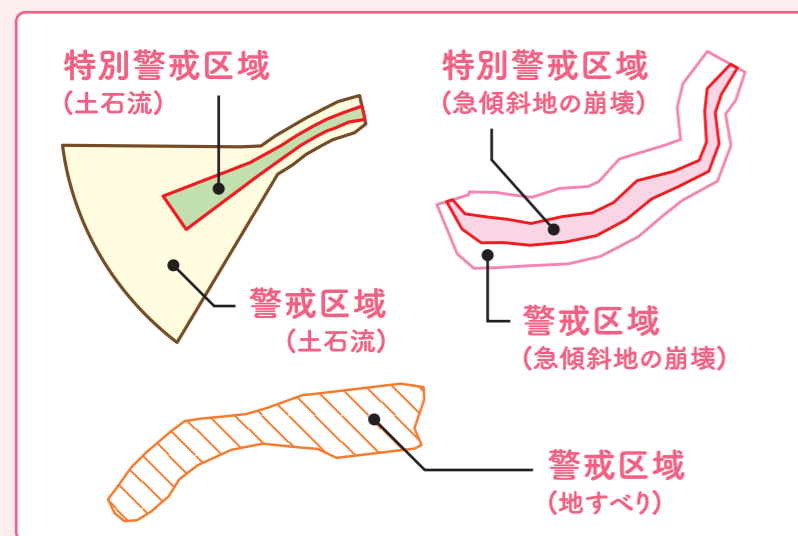


ハザードマップについて

このハザードマップは、土砂災害・水害を対象に、災害が発生するおそれのある危険区域を地図上に示したものです。このハザードマップに示されていない危険区域においても、被害が発生する可能性があるため、周囲の状況や防災気象情報に注意して、早め早めの行動を心がけてください。

土砂災害警戒区域・特別警戒区域

長崎県が令和3年3月現在で告示している「急傾斜地の崩壊」、「土石流」、「地すべり」の土砂災害警戒区域・特別警戒区域を示しています。

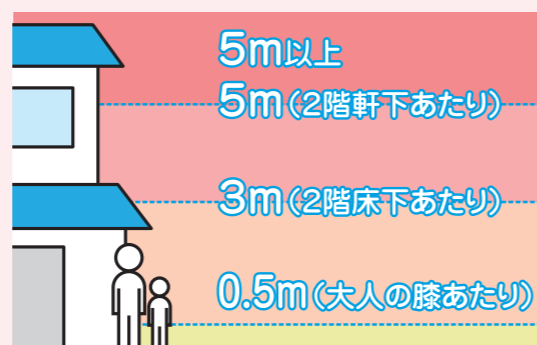


ため池浸水想定区域

ため池が満水時に地震によって決壊した場合に想定される浸水想定区域、浸水した場合の水深を示したものです。

浸水想定区域図を作成したため池は、人家及び主要道路に影響があるため池です。(防災重点ため池は青字表記)

●浸水深の目安



津波災害警戒区域

「津波浸水想定」をもとに、津波による人的災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域として、長崎県が平成29年3月に作成したものです。

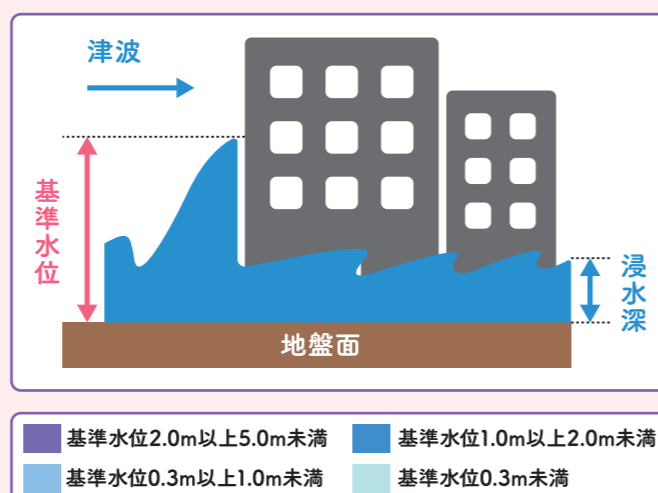
対象となる断層モデル

津波災害警戒区域の前提となる「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合として、6つの断層モデルを対象にシミュレーションを行った結果の最大値を示しています。

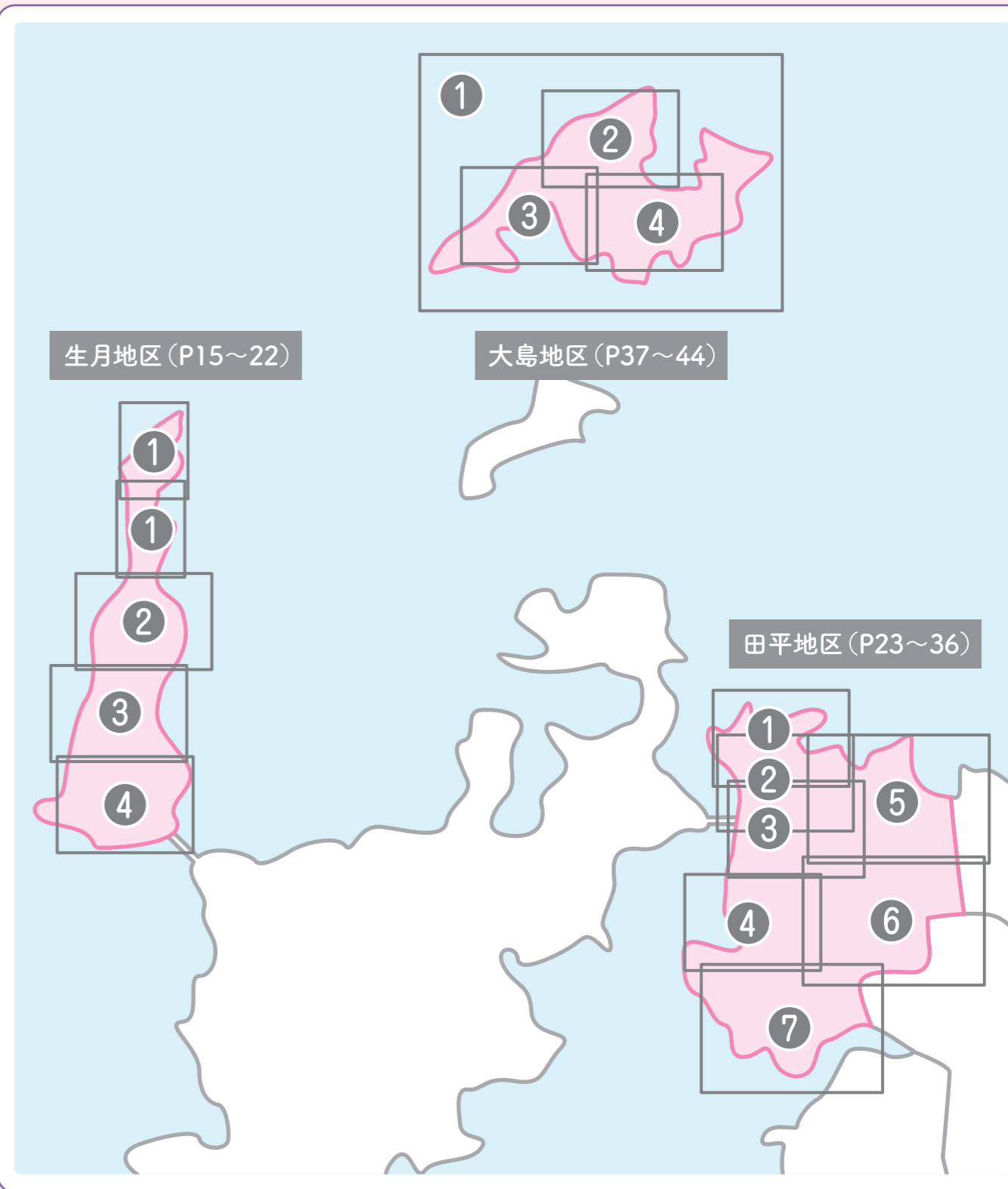
対象となる津波	マグニチュード
南海トラフ (ケース5)	Mw = 9.1
南海トラフ (ケース11)	Mw = 9.1
大村-諫早北西付近断層帯	Mw = 6.7
雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯の連動	Mw = 7.1
対馬海峡東の断層	Mw = 7.4
西山断層及び北方延長部の断層 (F60) 大すべり左側	Mw = 7.6

基準水位

ハザードマップには「基準水位」として示しており、津波浸水想定に定める浸水深に、建物などへの衝突によるせき上げ高を考慮した水位を示しています。



索引図



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。
「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2JHs 387」

ハザードマップで確認したいポイント

- 自宅などのある場所で指定されている、土砂災害警戒区域・ため池浸水想定区域・津波災害警戒区域など
- 避難場所の位置、自宅から避難場所へ向かう経路、避難経路中の危険箇所
- 災害時に危険と思われる箇所(河川より低い道路、防護柵のない水路など)
- 防災施設(消防団格納庫)

確認しよう!

